



道の駅で“くまモン”フィーバー お礼にお得意の体操も披露

11月7日、道の駅のと千里浜に熊本県のPRキャラクター“くまモン”がやって来ました！
羽咋市は平成28年4月に起こった熊本地震で被災地となった熊本県へ食料品などの物的支援や市職員の派遣による人的支援を行いました。今回はその感謝と復興に向けた決意を伝えるためにやって来たくまモン。道の駅には、そのかわいらしいでたちを一目見ようと大勢の親子連れが集まり、くまモンが登場すると大歓声が沸き起こりました。
くまモンは、山辺市長にお礼の色紙をプレゼントし、お得意の“くまモン体操”も披露。会場一体となって大盛り上がりとなりました。



↑大勢の人に取り囲まれ、大人気のくまモン。

声 (🗣️) まちの

みなさんからの
声を紹介します。

寄せられた声

ら らんのイルミネーションを見に行きました。この日は暖かな夜でした。寒い夜のイルミネーションも良いですが、暖かい夜も良いと思います。(60代・女性)
寒い夜とは違って、じつくりと楽しむことが出来たのではないのでしょうか。今年は前年より2万球の電飾を増やし、過去最多の約15万球が、場内を彩っています。また市内各施設ではスタンプラリーやクイズラリーなどのイベントを開催しています。ぜひ挑戦してみてください。

藤 岡でミカン狩りができたのは確か2年前、冬桜に誘われ、ついでに出掛けたミカン狩りがきっかけでした。

初めてのミカン狩りはそれはもう楽しかったです。小さなお子さんたちも喜んでいました。ミカンも美味しかったですよ。(50代・女性)
自分で収穫したミカンの味はまた格別ですね。鬼石地区のミカン狩りは本州の北限に位置すると言われています。ミカン狩りシーズンは桜山公園の冬桜はもちろん、紅葉や三波石峡なども楽しむことができます。ぜひ来年もお出かけください。
× 書館の古本市で紙芝居をいただいてきました。初めて出掛けたのであまり人が多くことに驚いてしまいました。3歳の孫に紙芝居をすることが楽しみです。(60代・女性)
本を大切にしてください。人の元へ届き、うれしく思っています。お孫さんと一緒に楽しいひと時をお過ごしください。

プレゼント

皆さんの声を募集します。本紙への感想、身の回りであった出来事や日常生活で感じたことなどをお寄せください。「まちの声」で紹介いたします。

※個別の回答はしません

応募・問い合わせ ハガキかメールに住所、氏名、性別、年齢、電話番号、まちの声を明記して〒375-8601(住所不要)市役所秘書課広報係「まちの声」応募係・✉hisyo@city.fujioka.gunma.jpへ

お便りをくれた人の中から、モミリーウィッチより好きなクレープ1つを15人にプレゼント。応募締め切りは12月15日(金)当日消印有効です。

※当選者の発表は10日前後で、引換券の発送をもってかえさせていただきます



好きなクレープ ※トッピングは除く

もちもちの生地を使ったボリューム満点のクレープ!

60種類以上の豊富なメニューに加え、季節限定メニューもご用意しています。テイクアウトや電話予約もご利用ください。

クレープ屋さん モミリーウィッチ藤岡店

藤岡市森342-4 ☎22207
営業時間/正午～午後6時
定休日/木曜日

プレゼントの提供者を募集しています。
秘書課広報係☎22208までご連絡ください。

耳より情報

幻想的な 光のページェント



冬の風物詩であるイルミネーション。市内各所でもイルミネーションが輝きを放っています。

Information

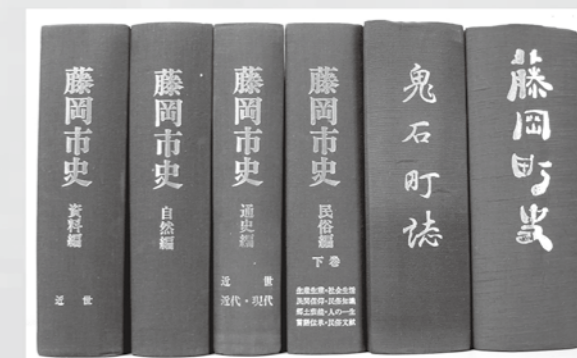
「道の駅」ららん藤岡
イルミネーション2017
*期間 平成30年1月31日(水)まで
*時間 午後5時～10時
*問い合わせ ららん藤岡 (☎2480220)
土と火の里公園
イルミネーション
*期間 平成30年1月31日(水)まで
*時間 午後4時～8時
*問い合わせ 土と火の里公園 (☎03385)

地域に寄せる関心

～郷土史・誌のあゆみ～

郡・甘楽郡の順で記述しています。

他にも1910年発行の『多野郡誌』、17年後の増補改訂版『群馬県多野郡誌』など多くの資料があり、これらの郷土史・誌は地域の歴史を研究する上で重要な役割を果たします。



左から、『藤岡市史』、『鬼石町誌』、『藤岡町史』

ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～ No.21

問い合わせ 文化財保護課 (☎235997)

数ある郷土史・誌は各地域研究の足跡とも言えます。本市にも多くの郷土史・誌があり、近年では『藤岡市史』(1984～2000年刊)、『鬼石町誌』(1984年刊)、『多野藤岡地方誌』(1974年刊)などがあります。また、市制施行3年後の1957年にはそれまで製作の進められていた『藤岡町史』が発刊されました。近世・近代に関する記述が詳しく、その当時の歴史を知るための重要な資料です。

さかのぼって、古い時代のものになると江戸時代の『上野名跡志』(1853年)が挙げられます。県史の前身というべき本で、藤岡の国学者である富田永世が著しました。この本では上野国の名跡や古い神社などの由来、村々の沿革について述べられており、自分の住む地域から記すとして、緑野郡・片岡郡・多胡